令和６年度　第３回豊田市産業振興委員会　会議録

【日　時】　令和７年２月７日（金）　１３時３０分～１５時００分

【場　所】　豊田市役所　南庁舎７階　南７３委員会室及びオンライン

【出席者】＜委員＞ 山田　基成〔名古屋大学名誉教授〕«会長»
三宅　英臣〔豊田商工会議所会頭〕«副会長»
石崎　正樹〔トヨタ自動車株式会社　総務部　渉外室　室長〕
内田　敬久〔愛知工業大学キャリアセンター長　工学部機械学科教授〕
尾村　明俊〔豊田信用金庫副理事長〕
勝田　剛教〔豊田ミナミ鉄工会会長
豊田汽缶株式会社取締役執行役員社長〕
兼重　明宏〔豊田工業高等専門学校機械工学科教授〕
樹神　康之〔豊田商工会議所第一工業部会部会長
株式会社豊栄商会　代表取締役社長〕
近藤　純子〔近藤工業株式会社代表取締役社長〕
坂本　和子〔法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授〕
杉浦　栄二〔豊田商工会議所第二工業部会部会長
豊田化学工業株式会社代表取締役社長〕
中川　幸臣〔あいち産業科学技術総合センター所長〕
松元　篤志〔小島プレス工業株式会社執行役員〕
渡邉　寿也〔協同組合豊田市鉄工会理事長
大東工業株式会社代表取締役社長〕

（計１４名）

【欠席者】
照井　清一〔株式会社アイリンク代表取締役（中小企業診断士）〕
弘中　史子〔中京大学総合政策学部教授〕

（計２名）

【事務局】
脇迫　博文　〔産業部長〕
成瀬　剛史　〔　〃　商工振興室長〕
川合　晃司　〔　〃　産業労働課長〕
山内　康資　〔　〃　次世代産業課長〕　他

【傍聴人】　４名

【次第】　1　開会
2　豊田市あいさつ
3　議題
（１）令和 6 年度豊田市建設業者実態調査の結果について（報告）
（２）「豊田市産業振興プラン 2025-2029」のパブリックコメント実施結果と対応について（協議）
4　その他連絡事項
5　閉会

【議事録（要約）】

1　開会

事務局より開会を宣言

2　豊田市あいさつ

○脇迫部長

委員の皆様には大変お忙しい中ご参加いただき感謝する。次期産業振興プランの公表に向け、アドバイスを受けて完成予定である。是非各立場からご意見いただきたい。

3　会長あいさつ

○山田会長

本日は、産業振興プランの最終案を確定するための会合である。是非忌憚のないご意見を頂きたい。議事進行へのご協力をよろしくお願いしたい。

4　議題

＜報告事項＞

（１）令和 6 年度豊田市建設業者実態調査の結果について（報告）

○事務局

令和 6 年度豊田市建設業者実態調査の結果について報告。

（【資料 1】令和 6 年度豊田市建設業者実態調査報告書（本編）により説明）

○山田会長

もしか何かあればご質問をいただきたい。

○A 委員

本会議には、近藤工業株式会社という製造業として参加しているが、刈谷市で建設業も手掛けている。直雇用は 300 人の規模であるが、実際の建設現場では多くの協力業者が必要となる。

資料では、雇用人数が 1～20 人の企業が 75%となっている。「1～5 人」の企業は、社長が職人/経理は妻/職人が 2～3 人という構成である。「0 人」の企業は一人親方を指す。

建設現場のプロセスにおいて、自社の 3 つほど後の工程に、このような規模の企業が入り、現場の作業を担っている。皆、高齢化しており、新たな採用は考えず、自分の代で事業を終了する予定の企業が多い。

新たな案件を受注する際には、このような小規模の協力会社に対して、想定工期のとおり対応可能か等をヒアリングしながら、受注するか辞退するかを決定するという状況が様々なところで起きている。つまり、小規模企業だけでなく建設業全体に影響が及んできている状況である。逼迫した課題であり、小規模事業者が存続できる手を打てないか考えている。

DX やカーボンニュートラルなど、今回のプランにも提示されているような課題に取り組む余裕のない企業が多い。安心して事業継続ができる対策がまずは必要であることを、今回のアンケート結果を見て改めて気付いた。

○山田会長

超零細事業者にどのような支援をすればよいと思うか。

○A 委員

難しい取り組みだと思うが、小規模の企業をグルーピングできないかと思う。受注を個別に直接行う状態では、事業が難しいからである。昨今は現金決済の廃止や電子システムの導入等の要求事項も多いので、それに対応するためにはある程度の規模が必要となる。職人の世界への入職が少なく、採用面でも大きな課題がある。なお、小規模事業者の多くは、公共事業には携わっていても、下請けの階層が重なっている中でも更に下層に位置することが多い。

○三宅副会長

産業界全体に、A 委員がおっしゃったような状況が多かれ少なかれある。ある程度の機能をサポートできる親会社が必要であろう。

ポイントとして、小規模事業者の場合、経営内容の分かる資料がない場合が多いことが問題である。1～2 人の企業は仕事の予定でいっぱいで、経営内容の分かる資料

をつくる余裕はないのだろうと推測する。
ものづくり産業をはじめ他の産業界でも少子高齢化に伴う人手不足は起きている。淘汰される会社もあれば、統廃合する会社もあるだろう。
今の社会においては、1～2 人の企業では太刀打ちできないものも多く、親会社がグルーピングを推進していく必要性がある。そのうえで、行政がどういった支援をするかは別の話である。
建設業においては、核家族化が進み一般の戸建てが多いことや、公共の橋等が建設後数十年経過し改修が必要になりつつある等、仕事は多くある。A 委員にお話しいただいた内容は喫緊の課題だと思う。

○山田会長
建設業者の調査の機会があれば、経営内容の分かる資料の作成状況を含めアンケートをしていただけると良い。

○事務局
グルーピングの話に驚いた。製造業の場合、人手不足への対応はＭ＆A の概念が出てきて、親会社がなんとかして救う、という方向で考える。このため、建設業でも自分の代で終了する一人親方に対し、Ｍ＆A の概念を用いて健康な方に承継してもらう等の対応があると考えていた。是非参考にさせていただきたい。
人手不足への対応に関しては、後ほど来年度の組織体制の話題の際に触れたい。

＜協議事項＞

（２）「豊田市産業振興プラン 2025-2029」のパブリックコメント実施結果と対応について（協議）

○事務局
（資料 2-1「パブリックコメントの実施結果と対応」、資料 2-2「産業振興プラン 2025-2029」概要版、参考資料「組織改編にともなう産業振興プランの推進体制の変更について」の説明）

○三宅副会長
とてもしっかりした資料を作成いただいた。しかし、もう少し「豊田らしさ」がほしい。豊田市は車のまちとして世界 1 位である。資料 6 ページの基本施策①技術開発や事業開発について、自動運転を世界に先駆けて対応しなければいけないと思う。し

かし、それが謳（うた）われていない。トヨタ自動車が中心となり、それを官が支えながら推進していく。自動運転は民間だけでは対応できない。
　例えば、自動運転をアジア大会までに行う等、具体的な目標を据えられると良い。技術力や環境は整ってきつつあると思う。

○事務局
自動運転は、未来都市推進課が実証段階からサポートしている。市民の理解促進を含め、先駆けて行っていく必要があることを内部でも共有させていただく。

○三宅副会長
未来都市推進課が自動運転に向けて取り組んでいるのかどうかがこちら側にはわからないので、わかるようにしていただきたい。

○事務局
　同課と連携しながら話を進めたい。

○三宅副会長
　未来都市推進課だけでは「絵に描いた餅」になってしまう可能性がある。少なからずチャレンジする姿勢をお願いしたい。

○事務局
大企業の意向と合わせて、実証は市としてサポートできる。しかし、準備を含め商工会議所としてのお力も借りて進めたい。

○三宅副会長
全員で行っていく。行政が旗振り役を担当しなければならない。

○事務局
プランへの書きぶりは個別にご相談させていただきたい。

○山田会長
プランの施策は３つの課のうちどこが担当するか、括弧書きで追記することは可能か。

○事務局
基本方針の単位では担当課が決まっている。表記方法を人事とも相談して記載したい。

○山田会長
市民や企業から見てわかるようにしていただけると良い。

○B 委員
恐らく見せ方の問題だと思うが、補助金や支援金の記載に偏っている印象を受けた。これまでの議論で具体策がいくつか出てきているので、そういった記述が欲しい。QR や URL を開けば動画等で詳細をすぐみられる等、少し情報を補強するだけでも具体化が進むと思う。
また、カーボンニュートラルについて、目標設定は明確化されているが、企業の負担軽減策やインセンティブ設定等、もう少し具体的にどう進めていけばよいかが記載していないと、やっていったらどうなるかということが読み手は不安に感じるだろう。DX や GX も、後の展開まで支援してもらえるような雰囲気があると安心してコミットできるのではないか。DX 人材の育成支援で、データ分析等を行うと思うが、どの育成段階のものかレベルが分かりづらい。建設業や製造業でもニーズが異なる。業種別支援まで、ブレイクダウンできると満足度が高まると思う。

○山田会長
今回の資料は概要版なので、本編の中で、B 委員からご指摘いただいたことが活かせる部分を反映いただくことになると思う。

○事務局
プランは今後 5 年間の中で随時見直していく予定である。QR 含め HP に誘導して細かい内容がわかるものや関連施策がわかるものを検討したい。ご指摘いただいたご意見のうち具体的な内容に関しては、本編で整理できればと思う。DX は業種別支援という方法もあるが、まずは初期の相談対応ができるようにして、段階に応じて重層的な支援体制が構築できると良い。

○B 委員
無理を言いまして申し訳ない。ありがとうございます。

○C 委員
概要版はとてもよくできていると思う。現段階では「やります」という表現だが、来年以降は「やりました」という報告をするタイミングがあると良い。アピールの仕方を工夫しなければ、行っていることが見えてこないのでぜひ工夫をお願いしたい。自分が大学に勤めているので、学生と話をしていると、ここ 10 年ほど、自動車関連企業に就職したいという人が少し減っている。自動車産業の未来が見通せておらず、他業界に流れている傾向が少し見られる。資料 4 ページの課題③「モビリティ社会へのしなやかな対応」について、これを市として打ち出し、次世代を担う学生たちに PR すること

で、その世界に飛び込みたいと思う学生が増えるかもしれない。
　また、デジタル人材について、情報関係の学部や学科が増えているので母数は増えているが、卒業生は製造業の DX 部門には就職せず、ウェブコンテンツなどに就職したいという人が多い。製造業に DX や GX の仕事があることを PR するためにも、このプランを活用できると良いだろう。

○事務局
　進捗管理と報告は、産業振興委員会で報告したい。周知は HP 等を通じて図りたい。
学生へのアプローチは、新たな産業人材活躍課で、企業側のニーズと学生側のニーズをくみ取り、マッチングできるよう、間に入って仕組み作りをしていきたい。

○D 委員
「基本方針 3　主な取組②：求人者や就業者へのスキルアップ支援」について、外国人就労者も含まれるという認識で良いか。企業には外国人も多く入ってきていると思うが、スキルアップや翻訳など、通常の 1.5 倍ほど費用が掛かる。

○事務局
　人材確保については業種に関係なく、多様な人材を支援の対象にしていきたいと考えている。今は定住外国人に対する、日本語教室等を行っているが、企業で活躍できるスキルまで含め検討しながら進めていければと考えている。

○山田会長
　この後の作業は事務局に一任することで良いか。

○一同
　異議なし。

○山田会長
　進捗等は今後産業振興委員会で報告いただくことになるかと思う。

4　その他連絡事項

5　閉会

○三宅副会長
　本当にいつも非常にきめ細かく資料を作成いただいている。現在は変化の時代であり、毎年メン

テナンスするということで安心している。企業には中長期計画がある。豊田市にも中長期ビジョンがあると良い。自動車産業における 100 年に一度と呼ばれる時代がどう変わるかによって、豊田市が大きく変わる可能性もある。カーボンニュートラルや SDGs 等は市民全体の話であるものの、産業界が中心となる。近い将来の着地点として 2030 年に見据えて行動できると良いと個人的には考える。

また、トヨタ自動車の意向も十分に聞く必要があるだろう。自動車といっても多様なサービスが包含されてきている。

○山田会長

産業振興プランは、それなりに気配りができたメニューになっていると思う。問題は、地元の企業が活用して成果を上げていただくことである。せっかく作成したプランなので、是非市内企業に知っていただけると良い。新しい組織体制の下で、事務局で尽力いただければと思う。

以上